

○はじめに～顧問より～

このページを見ていただいているということは、演劇部に少し興味を持っていただけた、ということだと思います。ご覧いただき、ありがとうございます！

中学校までで演劇の経験がある、という人は少ないと思います。今の部員も、入部するまで未経験。顧問である私も、高校ではじめて演劇にふれました。はじめてのことだからこそ、やってみるのには勇気がいるかも知れませんが、一度やってみるとなかなか離れられなくなってしまう、演劇にはそんな魅力があります。その魅力が何なのかは、実際にやってみた人間にしか分からないもの。ですから、ぜひ演劇部で、その魅力を味わっていただきたいです。

人前に出るのが苦手だから…という方。

演劇には、舞台には上がらないけれど大事な仕事もたくさんあります。演出、舞台監督、照明、音響、大道具、小道具、衣装…演劇は、役者以外の仕事も欠かせないものです。

また、人前に出るのが苦手でも、役者をやっているうちに、何だか人前に出ることには抵抗がなくなっていくかも知れません。舞台にいるのは、日常を離れた、自分でない誰か。自分でない誰かになるなんて、素敵な経験だと思います。

演劇部では、基本的に部員のみなさんにいろいろなことを任せています。たまに口出しをしたり、求められて指導したりすることもありますが、基本的には任せています。それは、自分たちの表現したいものをできるだけ大切にしてほしいと考えているからです。高校生だからこそ作れるもの、高校生だからこそ表現できるものがあり、それを大切にしてほしいのです。大人になったら、作れないもの。その表現に、青春をかけてみませんか？

このあと、演劇部の1年間の流れと、劇づくりでの仕事について、説明をしています。興味がわいたら、ぜひご一読いただき、気が向いたら、演劇部に遊びにきてください！

演劇部顧問
湯浅 達也

◎演劇部の1年

4月 ようこそ新入生!

他の部と同様、新入生の入部に向けて活動します。

演劇部の活動場所はちょっと分かりづらいところがありますが、とても居心地がいいですよ!



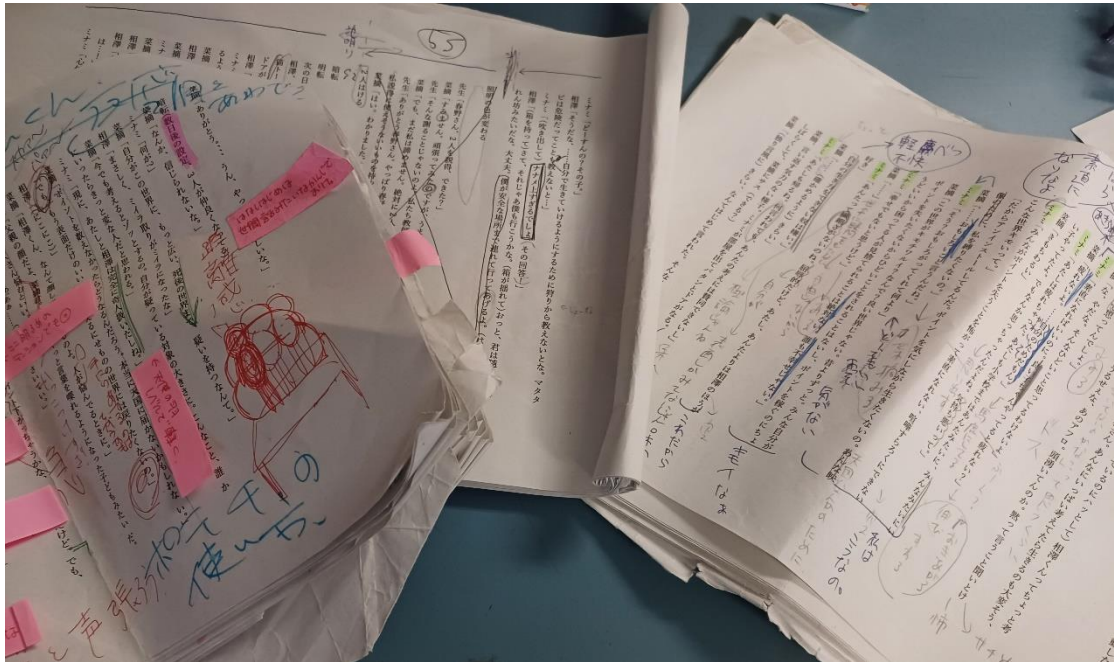
5月 台本選び

夏の大会に向けて、台本を書いたり選んだりします。夏の大会は、県、中部、そして全国までつながる、大事な大会。台本選びにも熱が入ります!

台本は、すでに過去に上演されたものを演じる「既成」と、新たに自分たちで書き上げる「創作」があります。最近は創作を上演することが多いです。物語を書いてみたい!という人は、ぜひ入部して、挑戦してみてください。

6月 猛練習!

まずは県大会を目指して、激しく楽しく練習に励みます。大道具や小道具などの舞台装置づくりもこの時期に行います。



7月 いよいよ大会!

例年、南文化小劇場で「名古屋第3地区大会」が行われます。ここで上位2校の優秀賞に選ばれると、県大会出場となります。めざせ、県大会!



8月 県大会&文化祭に向けて…

県大会は8月の上旬に行われます。その後、文化祭に向けて、大会での演目をアップデートしていきます。

9月 文化祭!

文化祭は、文化部の腕の見せ所です!

学校のみなさんや保護者の方に、改めて劇を見てもらいます。



10月~12月は、まったりゆったり過ごします。

12月に、校内向けの自主公演をすることもあります。

2023年度は、名古屋市消費生活センターの依頼により、オアシス21で啓発演劇の上演をしました!劇は[こちら\(YouTubeへ移動\)](#)から見るができます。

1月~3月 合同発表会

3月の春休みには、「名古屋地区合同発表会」が実施されます。桜台高校は「名古屋第3地区」ですが、他の第1・2・4地区と年替わりで合同で発表会を実施しています。1月ごろからは、この発表会に向けて準備を進めていきます。多くの場合、2年生はこの劇で引退となるため、自然と力も入ります。

2023年度は、守山文化小劇場で上演をしました。いつもはなかなか見られない学校の劇も見ることができ、大いに刺激になりました!



○演劇部のお仕事

演劇と言えば、舞台上で(ちょっと恥ずかしいかも知れない)セリフを言うもの…と思っていませんか?演劇はそれだけではなく、舞台を支える多くの人のお仕事で成り立っているもの。実は裏方の仕事もたくさんあるのです。

☆キャスト(役者)

与えられた役を演じます。役者の個性によって、同じ台本でも劇の見え方が変わってくるのが、演劇のおもしろいところ。はじめは恥ずかしいと思うかもしれませんが、演じることがだんだんと気持ちよく楽しく面白くなっていくのだから、不思議なものです。

☆演出

劇全体のイメージのとりまとめ役。主に役者の演技指導をします。時には、照明や音響等のプランについて指摘をすることも。演出のイメージが、劇づくりの核となっていきます。

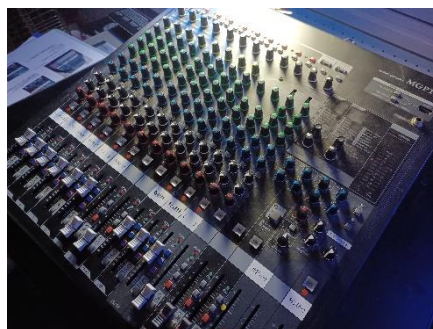
☆舞台監督

舞台全体の総責任者。演出がイメージを大切にすることは、舞台監督の仕事は、それをいかにして実際に落とし込むか、という仕事です。舞台全体のとりまとめをし、道具を手配したり、上演当日のプランを練ったりします。

裏方で、なかなか大変だけれど、とても大切な仕事。この仕事を見事こなすことができれば、あなたも「できる大人」の仲間入りです。

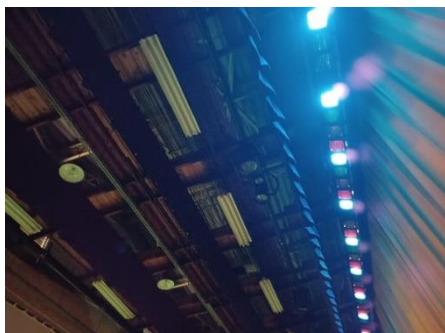
☆音響

音で舞台を作り上げるお仕事です。音が大きすぎても良くなく、小さすぎても良くなく、タイミングは早すぎても遅すぎてもいけない。「ちょうどよい音」を提供することが大切です。劇場によって音響の環境も変わってくるため、臨機応変に対応する力も求められますが、上手に音を出せたときの快感は得難いものがあります。



☆照明

光と闇で、舞台を作り上げるお仕事です。音響と同様、「ちょうどよい光」を提供することが大切です。明るさだけでなく、色によって、光の大きさによって、劇のなかのいろいろを表現していきます。照明も、劇場によって環境が異なるため、臨機応変な対応力が求められます。美しい光を与えることができたとき、自らもきっとその美しさに、ほれぼれとすることでしょう。



☆大道具・小道具・衣装

舞台装置を基本的に使わない劇(いわゆる「素舞台」)もありますが、多くの劇では大道具、小道具、衣装を使います。大道具は、背景のパネルなどを作るお仕事。小道具は、文字通り、手で扱えるような小さな道具を作るお仕事。衣装は、役ごとの個性を分かりやすくするために必要不可欠なもの。それぞれ、劇の雰囲気を作り、劇の表現を理解してもらいやすくするために欠かせない仕事です。上演の幕が上がった瞬間、時に観客から漏れる「おお…」という感嘆の吐息は、大道具・小道具・衣装の仕事に対するものです。

